~新たなものづくりへの創造と挑戦~

域

企

育

成

支

る

業

振

計画期間:平成28年度~平成32年度(5年間)

現状

【人口動態等】

- ○生産人口年齢が減少傾向
- ○20 代での転出超過傾向 → 若者の市外流出が拡大
- ○高校新卒での就職者が減少傾向 ⇔ 進学者の割合が増加
- ⇒ 地域産業全体に大きな影響を与えるおそれ

【本市工業の特性】

- ○加工組み立て型産業の占める割合が高い
- ○製造品出荷額は県内1位である一方、付加価値率は低い
- 〇山形大学における、有機エレクトロニクス関連分野をはじめ とする最先端の技術シーズの保有
- ○地域企業・団体・大学間の産業ネットワーク構築
- ○伝統的な繊維産業から最先端の情報·エレクトロクス産業まで裾野の広い産業基盤

【第1期工業振興計画に基づく施策評価】※主なもの

企業活動環境の整備

・金融機関・団体による融資制度・設備貸与等の制度が充実

産業ネットワークの強化

- ・企業間ネットワークによる各種活動への支援
- ·「ものづくり産業連携コーディネート事業」による技術開発支援、 大学との共同研究推進、受発注マッチング等の実施

新技術・新分野の創出

- ・有機エレクトロニクス関連技術の研究施設整備・産学連携の進展
- ・繊維作業全体での販路拡大、新商品開発への支援
- ・自動車関連産業は、新たな地域産業創出にはいたらず

企業誘致の推進

・継続した誘致活動により毎年数件の企業誘致を達成

ものづくり人材育成の強化

・企業人材育成に関する研修講座等の実施

情報収集・発信

・ものづくり企業の受発注ウェブサイトの開設

課題

○付加価値率の高い産業構造への転換

〇産学官金連携の機能強化

○優秀なものづくり人材 の育成・確保

〇新産業創出・新事業分野 への地域内企業の参入 促進

〇企業立地の推進・地域企 業の受発注促進

産業振興一業誘致による

4 戦略的企業立地の推進

米沢八幡原中核工業団地 及び米沢オフィス・アルカ ディアへの新規企業や、 研究機関の立地を推進

基本目標

『技術革新と人材育成を核とした高付加価値なものづくりの実現』

基 本 戦 略

1 力強いものづくり企業の育成

本市ものづくり企業の経 営基盤(経営力(収益性)・ 技術力)の強化を図り、 力強い企業を育成

2 総合力の高い ものづくり人材の育成

本市の『ものづくり人材』 の育成と確保に努め、新技 術習得等に向けた先進的 で高度な研究・教育を推進

3 世界へ発信する ものづくりの挑戦

有機エレクトロニクス関連分野や米沢織をはじめ、本市のものづくりを世界へ発信するとともに、地域産業の重層化を推進

1 地域ブランド戦略プロジェクト

- (ブランド力強化、販路開拓を支援する施策)
- ①地域資源(米沢織、有機 EL 照明関連分野)のブランディング強化支援
- ②販路開拓、新商品開発等を総合的にサポートする機能の検討

2 地域力を活かした複合的ものづくりプロジェクト

- (企業経営基盤強化・地域内連携を強化する施策)
- ①地域中小企業への技術開発支援
- ②産学官金連携によるビジネスマッチング機能の強化
- ③山形大学工学部による技術開発支援
- ④各種支援組織の再構築
- ⑤創業支援及び起業支援ファンドの検討

3 ものづくり人材確保・育成プロジェクト

- (高度な人材の育成・UJIターン等による人材確保の施策)
- ①人材の地域定着の推進事業の実施/インターンシップの強化・推進
- ②グローバル人材・高度研究人材の養成・確保

4 新産業創出及び新事業参入支援プロジェクト

- (次世代の産業創出・技術開発を支援する施策)
- ①有機エレクトロニクス関連分野の産業集積強化 及び地域企業の参入支援
- ②地域企業の次世代技術産業新分野や新事業への参入支援
- ③山形大学工学部の研究プロジェクトへの継続的支援
- ④6次産業化推進

5 企業立地戦略プロジェクト

- (総合的な企業立地及びサイエンスパーク推進の施策)
- ①オフィス・アルカディアを中心としたサイエンスパーク構想 の推進
- ②産学官金連携による企業誘致
- ③研究開発機能及び本社機能の誘致促進
- ④立地企業と地元企業との受発注促進

ものづくりをめぐる社会的潮流

〇 情報通信技術の革新によるものづくり産業の変革

loT 等、情報通信技術の革新に伴うものづくり産業の変革が世界的に進展

⇒ 将来的に本市のものづくり産業構造全体にも影響

〇 高速交通網の整備

東北中央自動車道福島~米沢北間の開通(H29年度予定)に伴う物流の利便性向上

産学官金の連携